



阿波三峰

朝念暮念

中津峰山如意輪寺

徳島市多家良町中津峰
TEL088-645-0008 FAX645-0508
http://www.mt.ne.jp/~nyoirin
nyoirin@nmt.ne.jp

バス便、10/17 9:30 11/23 9:30 11:30 アミコ前発

問い合わせ合わせ : 徳島市バス観光課 088-652-2133

親子の鐘の中津峰

基礎学力

昔から、読み書きそろばんと言われる。それは生きていく上でとっても大切な基礎学力であろう。

まず、読み書きからはじめよう。私は三十年ぶりにある若者グループの作文を読む機会を得た。三週間米国ニュージャージー州にホームステイし、帰国途上の飛行機の中で書いたものだ。「疲れていた」「眠くて書けなかった」等のいいわけが可能なものである。が、作文の実力はこんなときにどうというものだ。二十人の若者（高校生十八人、大学生二人）のうち半数たらずは合格点、五人はある程度優秀（本音はこれのみ合格点）であったことからそれぞれを物語る。また、彼らはこの文章が記録誌の原稿となることを知っていた。

落第に値する文章はどこが問題か。一、なにが言いたいかわからない。二、言いたいことをどう表現するか起承転結を考えていない。三、書き言葉と話し言葉の区別がない。基礎的文法力がたりない。四、ボキャブラリーが貧困である等々の問題がある。一、これはその小旅行で得たものを自分でわかっていないものと推定する。五人ぐらいはこの類に書いてしまったている。十時間余の飛行機の間は往便でわかっていないはずだ。なら、その時間を考え、別な紙に下書き、或いは設計をして文章化する時間は充分ある。その間に文法的にも

推敲して完成できるはずだ。ここでは高校生に要求するレベルの話である。二、四をいっしょにすると「アコク」だったですという文にたくさん出会った。小学校の作文授業からはじめなくてはなるまい。

読み書きのうち文章力は極端に開きがあった。しかも、平均的には劣化している。因みに英語力も同様、全く通じないものからアメリカ人が感心するほどの力があるものもいたと聞く。書くことは読むことからはじまる。話し言葉と書き言葉が区別できない、ボキャ貧といふのは書物を読んでいない証左であろう。

そろばんはどうか？私が高校教師をしていた三十数年前にも $1/3 + 1/2 = 5/6$ というものが高校入試を合格していたという。それ以降、文部省は数学の教育課程は難しすぎるとしてレベルを落とした。「みんなができるようにする」といつわらうておった。はたしてそのとおりになつているのであるか。

教育課程の劣化はこれにどまらない。阿南市、密蔵院の神野良戒君は明治工学工学部機械工学科航空工学専攻の大学院生、当山とは法縁で坊さん部門の指導をしている。彼曰く「高校のとき、二コト力学をやった。二コト力学に進むのに二コト力学を選考するのは英語を履修していないよいうなものだ。それでも入学できるから不思議だ。電気

の分野では中学課程の簡単なオームの法則ができず家庭でこの足配線をやった。ないだろうが。先般、東海村で放射能漏れがおこった。はじめは原子力発電所の放射能漏れくらいかと思っていたら臨界に達したたいへんな事故だった。臨界とは何だ。ウラン二三五を一度に集めるところとなるのか。では、原爆とこのたびの事故は同じ原理ではないか。違うのならどこが違うか。原子物理学の基礎である。原子力発電反対者にも、かかる基礎知識が乏しいようなことが見受けられる。化学はもっと身近である。トイレの洗剤を混ぜ合わせたため死んでしまった例もある。これら高校の物理・化学を自分の安全のために勉強していれば十分防衛できることである。また、医学部へは生物を履修しないで進学できる。生物学は座学として書物で勉強できるように思うが、私の高校時代でも二ヶ月ほど顕微鏡実習があった。その間に器具の扱い方、スケッチの仕方を体得するのである。それを抜きに大学でいきなり電子顕微鏡となるのであるか。

理科教育はこのように座学だけでできない技術、技能を子供の頃から身につけていかねばならない。

社会科学はどうか。高校に私奉職していた頃の社会科学は地理、歴史、日本、世界、倫理、社会、政治、経済が必修であった。いつの間にかこれが、教科目になっていく。今起こっている東チモール問題を直接教えるこ

とはない。が、あの問題を総合的に自分で解釈する必要がある。それが現代人だ。そのためには先のどの科目も大切だ。中国政府は日本が南京等で虐殺をしたからと日本が不況にあえぐというのにお構いなく金をもっていく。現中国政府がそんなこといえるであろうか。五十年前の日本の行為を批判しながら、チベットでは三十年前から現在まで虐待、殺戮をしているのは今の政府ではないか。こういつた判断もできなくてはなるまい。更に今の自虐的教科書にならされた国民から考える国民にさせるのは社会科学なのだ。

こういつた基礎的教養をゼネラル・アーツという。現代の大学生をはじめとする高等教育を受けたもの。および、中等教育修了者にも基礎的教養がたりないとよくいわれている。これらの原因はすべて日本の受験教育にある。受験生は難しい勉強をしているというのには誤解である。現行のものは受験生に迎合するといつても過言ではない。その上、予備校化、傾向と対策化となつて学問を歪めている。

私はアメリカ、ミシガン州のオオミ大学の入学面接審査委員として、アメリカの大学進学方法を垣間見る。結果、アメリカの進学制度が優れていると思う。それは世間でよくいう「入りやすく、卒業しづらい」というのではない。各学部、学科に進むに高校、大学を通じ GPA という日頃の成績を中心に履修科目の全国的評価に

十一月二十三日
勤労感謝の日

百味供養会

海山里の恵みに感謝して



10時より
12時頃
13時より
15時頃

第一会（大般若転読法会）
本山布教師による法話
第二会（大柴燈護摩供）
火渡り

百味供養会臨時バス就航（アミコ前発着）
第1便 9:30発 13:30帰着
第2便 11:30発 15:30帰着

詳細は市バス観光課まで

よって入学させる。気持ちが変わっても、その大学以外へ乗り換えし(トランスファー)、やりなおしのきく制度だ。スオミ大学に入学し四年間いた日本人学生はいない。また、医学部や法学部は学部を卒業して大学院課程で専攻する。言い換えれば大学学部は基礎的教養の場なのである。慶応大学の医学部生の強姦事件を見るにつけ日本でも考えなければならぬ。

ネパール紀行

(続ブータン紀行)

ブータンからカトマンズ空港につき、マフ・ホテルへもうなじみの風景であるが、前のハイスクールではサッカーの対抗戦が行われている。ブータンへ発つ前の雨期あけ湿気の多い風景とは全く違う。青い空のもと

一冊の本『がん・ガン・癌』 松岡久夫 人間と歴史社

副題に「死を看とる」

副題に「死を看とる」生きている「癒す」とある。外科医三十五年の中から想いで深い記録をもとに三つの分野でまとめたもの。外科医でなければわからないもの、実際にどのように処置したか、一見素人にはなにもわからないことでも外科医としてはシヨックを受けたこと、手術の失敗談等々率直に書かれていて、技術的なことも多く、私の母が昭和三十三年に胃癌で亡くなったときそのころの痛みを和らげる処置はこの程度であったというのをご本で知った。氏の病院では癌告知が原則らしい。末期になつてい

絶好の運動会日より。その陽気が人々をお祭り気分にしていて。午後、私たちは旧王宮の見学に出かけた。旧王宮前のダルパール広場建造物群は十六、十八世紀に三王朝が競って建てたという。日本の建造物とは違いますが、美しい薨が青い々々大空にそびえる。その軒先には五十cmぐらいの煌びやかな模様の新しき幕で飾られている。一層ならよいが五重塔もある。建物の大小、何層を問わず同じに飾るのは大変だ。広場には焼き肉、とうもろこし、唐辛子、日用品等々の屋台店が並び、大道芸人、仮設の舞台を設けての地区対抗の合唱隊、学芸会がはじまっている。女の人は皆真新しいサリーを纏って広場に繰り

出し、美を競っているかのようである。今日はカトマンズの初秋の大祭インドラ・ジャトラの初日である。広場の入り口から交通規制があつて歩行者天国になつていて。旧王宮広場に長い松の木が立てられ、ここに神々の王インドラがここに降臨する。これを寿ぐのに生き神様クマリの山車が三日間町中を巡る。その山車行幸の準備が整っている。我々はガイド、リジャルの案内でクマリ館にいった。この周辺では靴を脱がされたり、革のものを全部取りさつて礼拝するなど厳格である。生き神様はしかるべき拝観料払つと二階正面の窓から顔を出してくれる。しかし、いつも歌舞伎の熊取のような化粧して素顔は見

も告知し、手術するかどうかは自己決定させるらしい。私はインフォームドコンセントというの一面酷な処置であると思つていて。それは身内の病気を告げられるときもさることながら、当山に告知を受け、或いは検査方法の説明だけでもうとんでもない結論へ自分で導いている。癌告知、インフォームドコンセントの説明にも技術があるのであるまいか。先述のアメリカ派遣の交換に日本に来ていた高校生が香川で病気になつた。高校生は言葉が充分伝わらない異国で不安の極に達していただろう。そ

の折り香川県あげての医学の治療に対し、先方のリーダーは博士号を持つ、日本流にいえば臨床心理士であった。彼女が看護に当たつてくれ、日米合同の治療となつた。その現場を目の当たりにしてアメリカと癒しのテクニクは格段の差があると思われた。また、この種の本が外国語に訳されたらどうという評価をうけるだろうか。もし、外国人の本であればキリスト教等の信仰の基盤があるはずだ。そこに人間的に物足りなさを感ずる。

余録

せない。リジャルがお願いに言ったのだが、行幸の衣装付けが忙しく無理だという。生き神様クマリとは大女神ドウルガー、昔のネパール王国の守護神タレジュ女神、佛教徒からは密教の女神ヴァジュラ、デーヴィーが宿るといふ。彼女はネワール佛教徒の僧侶・金細工師カーストのサキヤの家族から初潮前の怪我の跡や身体に欠けたところのない、利発な少女が選ばれる。その選考には聖性があるかどうかか基準となる。インドラ・ジャトラとタサインの日には国王がクマリ館を訪れ彼女の前にひざまずいて祝福のティカを受ける。そんな生き神様だが初潮を見ると交代してただの人となる。我々は日本人流に山車を見ないで次に進んでしまった。交通規制の関係でカトマンズの繁華街を歩く。いたるところに寺院、礼拝所、祠がある。今日はお祭りみんなど着飾つて街を闊歩している。民族衣装のサリー、バングラドレス、ジーンズなど様々だが、女性はやはり民族衣装が多い。商店街は日本と一緒でバーゲンセール中だ。唐辛子、丁字をはじめとした香料を買う。露天の焼き鳥などはリジャルが普通のネパール人でも病気になるから食べるなという。魚屋がおもしろい。鯉のよな川魚を売るのが鱗を上に向けたような金具で鱗を取つている。日本人なら包丁で充分とれるのに。かくして、旅ののこり二日をお祭りのカトマンズを散策することとなつた。

今号も堅苦しくなつてしまった。楽しい話を友人がゴルフに行った。ワンラウンド回つて、お昼になりレストランへ。今日の日替わりメニューはお寿司であつた。友人は「お寿司はいらんから、おにぎりでください」「おにぎりはありません」「ご飯もないの」「ご飯はあります」「友人は怒るようになっています。」「それなら、おにぎりでできるだろう」「ご飯はありますけど、おにぎりはありません」「これは小咄ではありません、実際にあつた話です。今年の「豊茶羅大祭」は第十一番、田村神社で行われる。久しぶりに神道による式典です。特に珍しい神道護摩が行われます。今月二十六日の日曜日には田村神社へどうぞ。今月十日より副住は十年に一度開筵される学修灌頂の承仕として出仕のため、一月あまり高野山に登ります。この灌頂は高野山だけの最奥義の灌頂で、入壇が許されると伝道大阿闍梨となります。十年前、私が入壇し息子が随行(伴僧)をしました。このたびは準備一切を行う承仕となります。本人が入壇できるのは次の二十年後となり、その間いろいろな課程を踏む必要があります。かかる事情で当山は私一人となり多少ご迷惑をかけるかも知れませんが悪しからずご了承ください。

11/24 まんだら大祭 神道護摩

於、田村神社 高松市一宮町 286

五木ひろしそっくりさん来演 福投げうどん接待あり